令和元年度公益財団法人国際エメックスセンター事業報告書

（平成３１年４月１日～令和２年３月３１日）

１　閉鎖性海域環境保全推進事業

ア　①第13回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス13）の開催準備等

令和元年（2019年）6月に松田副理事長、エメックスセンター事務局がイギリスのキングストン・アポン・ハル及び会議会場となるハル大学を訪問し、共催者のECSA（Estuarine & Coastal Sciences Association、河口域・沿岸科学学会）事務局と事前調整を行った。

また、令和元年（2019年）7月に開催した科学・政策委員会において、ECSA事務局から令和2年（2020年）9月（当初予定）に開催するエメックス13のテーマ、セッショントピックス等について具体的な提案が行われ、協議を行った。

【エメックス13会議の事前調整】
〔出張期間〕令和元年（2019年）6月16日（日）～20日（木）
〔出 張 先〕イギリス　キングストン・アポン・ハル及びハル大学
〔出 張 者〕松田治 エメックス副理事長、エメックス事務局員2名
〔協 議 等〕
○共催者であり現地事務局をECSA（Estuarine & Coastal Sciences Association、河口域・沿岸科学学会）事務局のエリオット教授、カレン氏と会議プログラム、青少年環境教育交流セッション等について打合せを行った他、会議会場となるハル大学や科学政策委員会の会場候補のギルドホール及びテクニカルツアー候補地の視察を行った。

【エメックス13会議の概要（案）】
〔名　称〕　第13回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス13）
＜EMECS13－ECSA58ジョイント会議＞
〔テーマ〕　人類の時代における河口域と沿岸域
～構造、機能、サービス、そして管理～
〔開催時期〕令和3年（2021年）9月6日（月）～10日（金）※新型コロナウイルス感染症拡大のため当初の予定から1年開催を延期
〔場　所〕　イギリス　キングストン・アポン・ハル、ハル大学
〔主催者〕　国際エメックスセンター
〔共催者・現地事務局〕　ECSA（Estuarine & Coastal Sciences Association、河口域・沿岸科学学会）

ハル大学

イ　科学・政策委員会の開催

〔開催時期〕令和元年（2019年）7月16日（火）

〔開催場所〕兵庫県公館　第1会議室

エメックス13の会議テーマ、トピックス等の検討及びエメックス14の開催候補地、エメックス活動の推進について検討調整を図るため科学・政策委員会を開催した。エメックス14の開催候補地については、南フランス、パラオ共和国、ロシアのムルマンスク、アメリカのシアトルの４候補地から、北極海の資源環境等に昨今関心が高まっていることから、北極海に面したロシアのムルマンスクに決定した。

ウ　エメックス国際セミナーの開催

「持続可能な河口域・海域生態系の評価はどうするのか？」をテーマとして日本、アメリカ、ヨーロッパ、中国、オーストラリアにおける河口域・海域生態系の持続可能性評価をどうするのか、また、海洋酸性化やマイクロプラスティック等の新たな課題についての現状と対策について専門家による講演と討議、エメックス13（英国・ハル）の開催案内を行った。

【エメックス国際セミナーの概要】

〔開催時期〕令和元年（2019年）7月17日（水）13:30～17:15

〔開催場所〕ラッセホール・ローズサルーン（神戸市中央区）

〔テーマ〕　持続可能な河口域・海域生態系の評価はどうするのか？

〔参加者〕　141名

〔内　容〕

講演１　栄養塩濃度の低下が沿岸海域の生態系に及ぼす影響
－データ解析と現地実験－
藤原　建紀（京都大学名誉教授）

講演２　気候変動、海洋ごみなど新たな課題をはじめとする持続可能な海洋・沿岸域生態系に向けての進捗評価
ディビッド・ネマジー（米国・メリーランド大学環境科学センター首席補佐官）
ロバート・サマーズ（米国・メリーランド大学環境科学センター上級科学研究員）

講演３　持続可能な統合的海域管理のためのシステム分析アプローチ
マイケル・エリオット（英国・ハル大学教授、ECSS共同編集長）

講演４　中国の河口域：さらなる回復力と持続可能性への課題
陳　中原（中国・華東師範大学教授）

講演５　持続可能な海洋生態系管理をどのように評価するのか？
エリック・ウォランスキー（オーストラリア・ジェームズ・クック大学教授）

ディスカッション　モデレーター：渡邉 正孝（中央大学研究開発機構教授）

EMECS13－ECSA58ジョイント会議のご案内
マイケル・エリオット（英国・ハル大学教授、ECSS共同編集長）
ティム・イェンネルヤーン
（ドイツ・ライプニッツ熱帯海洋研究センター生体生物地球科学ワーキンググループ長、ECSS編集長）

エ　国内外機関との連携

① PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）との連携

平成20年（2008年）よりエメックスが非政府パートナーとして加入しているPEMSEA（Partnerships in Environmental Management for the Seas of East Asia）の第11回年次会合に松田治エメックスセンター副理事長が参加し、エメックスの活動紹介を行った。

〔開催時期〕令和元年（2019年）7月24日（水）～26日（金）
〔開催場所〕スラバヤ（インドネシア共和国）
〔出席者〕　松田 治 エメックス副理事長

② MEDCOAST（Mediterranean Coastal Foundation）財団との連携

オザーン科学・政策委員が代表を務めるMEDCOAST財団主催の国際会議MEDCOAST19会議に柳 哲雄エメックス理事、日高 健 近畿大学教授が参加し、セッションでの発表や討議を行った。

〔出張期間〕令和元年（2019年）10月22日（火）～26日（土）
〔出張先〕マルマリス（トルコ共和国）
〔出張者〕柳 哲雄 エメックス理事、日高 健 近畿大学教授

③ NPO法人里海づくり研究会議との連携

松田 治エメックス副理事長が理事長を務めるNPO法人里海づくり研究会議等と連携し、全国里海シンポジウムを開催し、里海づくりに関する情報交換や取り組み事例の紹介等を行った。

〔開催時期〕令和元年（2019年）12月7日（土）
〔開催場所〕沖縄県恩納村

④ アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)、神戸大学内海域環境教育研究センターとの連携

海洋環境問題の研究者、行政関係者や大学生、高校生を対象に、海洋に関連する環境問題について、最新事情の発表やパネルディスカッションを通じて理解を深めてもらうセミナーをAPN、神戸大学内海域環境教育研究センターと共催で実施した。

〔開催時期〕令和2年（2020年）2月22日（土）13:00～17:00

〔開催場所〕神戸大学　滝川学術交流記念会館

〔参加者〕81名

オ　調査研究事業

① 客員研究員による研究プロジェクトの企画・提案活動

高度な知識、経験等を有する研究員を国際エメックスセンターの客員研究員として委嘱し、調査研究に係る協力を要請する「客員研究員制度」を立ち上げ、新たな調査研究事業や若手研究者とのネットワーク構築等について協議を行った。

〔開催時期〕キックオフ：令和元年（2019年）6月21日（金）
第1回：令和元年（2019年）8月23日（金）
第2回：令和2年（2020年）2月4日（火）

② 体制の強化

エメックスセンターの調査研究事業を更に推進するため、アメリカ、オーストラリアなど海外の閉鎖性海域に関する調査や閉鎖性海域データベースの充実強化等を担当する研究員を2名採用し、体制の強化を図った。

③ 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等の進んだ湾奥部の環境の再生をめざして尼崎港に設置している人工干潟等の実証実験施設を共同研究の場として活用し、兵庫県環境研究センターによる人工干潟内に生息する生物を通じた物質循環による栄養塩類供給等の調査研究の推進を図った。

石積護岸

【尼崎港実証実験施設】

実証実験施設は、エメックスセンターが平成13年度（2001年度）から平成15年度（2003年度）まで、環境省の補助金を得て実施した「閉鎖性海域の最適環境修復技術のパッケージ化」事業において、尼崎港に設置した人工干潟、筏、エコシステム護岸である。

補助事業の終了後も研究者の調査研究や環境学習に有効活用している。

④ BRACE財団からの資金供与による研究事業

香港に拠点を置くBRACE財団から資金供与を受け、日本でのウニ捕食による磯焼けの現地調査及び可能な解決策の探求に関する研究プロジェクトを実施した。

〔研究テーマ〕日本でのウニ捕食による磯焼けの文献調査と現地調査及び可能な解決策の探求

〔プロジェクトリーダー〕小松　輝久 エメックス上席客員研究員

〔実施期間〕令和元年（2019年）8月1日（木）～令和2年3月31日（火）

2　情報収集整備活用事業

ア　インターネットによる情報発信等

ホームページをリニューアルし、閉鎖性海域・里海データベースの充実強化を図り、画面構成を見やすくするなど情報発信機能の強化を図った。更に、Facebookを立ち上げ、タイムリーな情報発信を行い、情報発信ツールの多様化を行った。

イ　エメックスニュースレター等による情報発信

エメックス会議の開催状況やエメックスセンターの事業内容等の情報を発信するため「エメックスニュースレターNo.39」を発行した（日本語・英語）。

また、メール配信システム（メルマガ）を利用して、会議やイベントの開催案内などを行った。

ウ　パンフレットの更新

広報活動を一層推進するため、日本語版、英語版のパンフレットを更新し、広報ツールの充実強化を行った。

3　人材育成・普及啓発事業

ア　青少年環境教育交流(SSP)セッション派遣学生の選考

第6回エメックス会議（平成18年(2006年)バンコク）以来、継続実施されている「青少年環境教育交流(SSP)セッション」への参加者として、第13回エメックス会議（令和2年(2020年)9月イギリス）に派遣する学生の選考を実施した。

〔派遣者募集〕令和元年(2019年)9月～11月
〔選考手続〕令和元年(2019年)12月(書類選考)
〔選考委員〕川井 浩史　神戸大学内海域教育研究センター　センター長・教授（エメックス科学・政策委員）
張　勁　富山大学大学院理工学研究部教授（エメックス科学・政策委員）
森本 昭彦　愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授
今井 一郎　北海道大学　名誉教授
春名 克彦　国際エメックスセンター専務理事
〔応募状況〕16件（高校生14件、大学生2件）うち書類選考通過11件
※新型コロナウイルス感染症拡大によりセッションを中止

イ　統合的水環境管理研修（JICA研修）

公益財団法人世界湖沼環境委員会（ILEC）が独立行政法人国際協力機構（JICA）から受託した「水資源の持続可能な利用と保全のための統合的湖沼・河川・沿岸流域管理」コースの沿岸域に関する研修の一部を実施した。

日生漁業協同組合視察

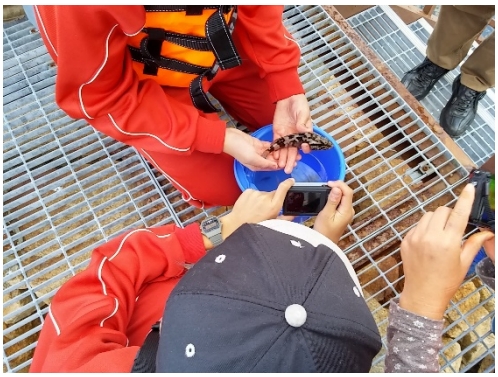
〔研修期間〕令和元年（2019年）9月18日（水）～19日（木）
〔研修員〕　6か国（バングラデシュ、ブラジル、インドネシア、ミャンマー、パナマ、北マケドニア）から9名（技術系行政官、研究者等）
〔研修内容〕

講義	・世界における里海概念の発展 ・世界の閉鎖性海域における環境管理 ・最近の閉鎖性海域の環境保全に関する話題
現地見学	・日生町漁業協同組合

ウ　海の環境学習人材育成事業

尼崎港内に設置している実験筏等を活動フィールドとして提供し、環境学習活動に対して支援を行っている。「尼海の会（尼崎市立成良中学校ネイチャークラブが中心）」が徳島大学上月教授等を指導者として、人工干潟の清掃活動、生き物調査等の活動を支援した。

今後とも、環境学習人材育成の場として、有識者、地元中学･高校、ＮＰＯ、兵庫県尼崎港管理事務所、武庫川下流浄化センター、大阪湾広域臨海環境整備センターなど、関係者・関係機関とも協力・連携して活動を推進していく。



生き物調査

エ　環境イベントへの出展等

兵庫県が主催するふれあいフェスティバルin北播磨の一環として実施された「ひょうごエコフェスティバル2019」に出展し、エメックスセンター活動の普及啓発や閉鎖性海域の状況、海の生態系等に関する情報発信を行った。

〔共同出展者〕国際エメックスセンター、瀬戸内海環境保全協会、兵庫県水大気課、ひょうご環境保全連絡会、兵庫県フロン回収・処理推進協議会

〔内　容〕

・環境パネル展示
・環境クイズ
・疑似魚釣り体験
・燃料電池カー工作体験　など

展示ブースの状況

【ふれあいの祭典北播磨ふれあいフェスティバルの概要】
〔日　時〕令和元年（2019年）10月26日（土）～27日（日）
〔場　所〕兵庫県立三木総合防災公園（三木市志染町）
〔主　催〕ふれあいフェスティバルin北播磨実行委員会
〔参加者〕5万7千人（実行委員会発表）